今年初の沢行は、翌日の山の会クリーンハイクにからめて軍刀利(ぐんだり)沢となった。短いながらも上れる滝が次々に出てくる沢初めに適した沢である。

武蔵五日市駅から十里木を越え、檜原街道から矢沢林道に入りゲートのある熊倉沢出合手前にスペースを見つけ車を停めた。

今回のメンバーは、リーダーがA木さん、サブリーダーにT野さん、いつも元気なAねーさんに沢は久しぶりのA上さんと僕の5人組。準備をして林道を歩き出す。 そう言えば今日から6月、暦の上では夏となる。

「でも俳句の季語では5月から7月が夏なんですよね」とA木さんがトリビアを披露。 「あっ、A木さん、それって俳句とハイク (ハイキング) を掛けてるんですか?」 A木さんがニヤッと笑い

「軍刀利沢だけにぐんだりけったりなんて言わないで」とダジャレ大魔神に変わった。

林道を40分程歩き軍刀利沢出合に着いた。ハーネスやスパッツを取り付け、ゆっくり柔軟体操を終えると9:30になった。

「入渓~!」なんて声を出しながら沢床へ下りる。久し振りに沢靴で流れの中に踏み込む。フェルトの靴底が水を吸って沢シーズンが始まった。

ボコボコしたナメの狭い谷を行くと右に黒い2m幅広滝が現われる。取り付きは左から。曇っているが頭上を覆う緑には目が奪われる。

 $3 \, \text{m} \times 4 \, \text{m} \, \text{と}$ 手ごろな滝が続く。小気味よく次々と小滝が現われる楽しい沢である。沢が久し振りのためA上さんは手掛かり足掛かりに迷っている所もあるがAねーさんが近くに寄って手掛かりを示したり、高さのある所ではA木さんが小まめにザイルを出して行く。



8 m滝には倒木が引っ掛かっており、下方では倒木にしがみつくようにして上がる。そこを越えて2段15 mの大滝は真ん中が出張り手掛かりがなさそう。さすがに取り付けず左岸を巻くことにする。古いトラロープが横方向に渡されているが、これには触れずにA木さんがザイルを這わせてA上さんをサポートする。高度感のあるトラバースだが足場は見た目ほど悪くはない。

立ち上がった6m滝。岩肌がテレッとしていて手掛かりは浅そうだ。左岸に巻き路がありこれは巻きかなと思ったがA木さんは取りついた。途中で

「ハーケンをはーけん(発見)した」という余裕もかませ長いリーチを生かして上がって行く。上まで行くとザイルを取り出し放ってきた。A上さんがザイルの端を付け取り掛かる。下から寄り添うようにAねーさんが手の置き場、足の置き場を指示する。

A上さんが上がり切ると、Aねーさんがザイルを使わずフリーで上り始めた。しかし途中でズルズルーっと落ちてしまう。「あっ」と思ったが、落ちながらも顔は笑っていて大丈夫だと思った。ザイルを投げてもらい再度取り掛かり上がって行った。

僕は鼻からザイルの確保を頼み取り掛かった。中ほどまで上がり三点確保したまま

左手を左方向の濡れた岩に伸ばした時、体幹がずれ、左足の濡れた狭いスタンスから 左足が滑ってしまった。確保されていたおかげでゆっくりとした落ち方だったが1m 程滑った所で足がスタンスを捉えた。

A木さんが「ちょっと休みますか?」と聞いてきたが意外と気持ちは戻っており「もう立て直しました。このまま行きます」と答えた。

より慎重に手掛かり足掛かりを探り上がり切った。

「さすがに二人も滑ると緊張するなぁ」とT野さんも上がって来た。

ザイルで確保されていることで心に隙ができていたのだろうか。つくづく甘かったなと反省させられた。難度の高くない沢で戒めとして早目に失敗しておいて良かったかもしれない。



高度感のある10m滝。先ほどの6m滝よりさらに岩肌はテレテレである。左岸に巻き路が付いている。A木さんも

「これは巻きですね」と言って取り敢えず滝の下で一本入れることにした。

滝を見上げモグモグしながらT野さんが

「でもあれだな、巻いてトップロープ垂らしたら遊べるんじゃないか。」

おにぎりを飲み込むとザイルを2本持って巻き路を上がり、滝の落ち口の木に固定してザイルを垂らした。Aねーさんが確保しT野さんが懸垂下降するが足場が滑って下降も難しそうだった。

垂れたザイルを取り付けA木さんが滝の右側に取り付いた。しかし 3/4 上がった所でなかなか進めない。手を出しては引っ込め足を出しては引っ込めを繰り返した後、ようやく難所を上がり切った。

続いて「よーし」とT野さん。同じルートを辿りやはり同じ所で苦戦。手の置き替えを何度かして突破に成功。上り切ると上から見下ろし

「他誰かやる人いるう?」

もちろんそれには耳を貸さず三人団子になって巻き路を上がった。

10m滝を越えるともうこれと言った滝は無い。少し先の二俣で休憩。通常ルートは左俣だが

「熊倉沢の方へ下るんだったら右俣行っちゃえばショートカットになるんじゃない」とT野さんが地図を見ながら言った。

「ただし生藤山(しょうとうさん)には行けないけどね。」

「しょうとうカットというわけですね。」

「しょうっと (そーっと) カットしちゃいますか。」

「しょうと(そうと)決まったら右俣ですか。」

「もうしょうとう(消灯)。」

「あぁ、終わりってわけね。うまい。」

A木さん、T野さん、僕の掛け合いにつられて

「しょうと決まったら…ってさっき誰か言ったか」とAねーさんまで言い出した。

「じゃあ誰も生藤山行かないんだったら右俣行こうか」とT野さんが言うと

「私、生藤山行きたい」とA上さんが小さな声でしょうっと手を挙げた。

小さな1票で左俣へ行くことに決まった。

次第に水が枯れていく。乾いた岩場に掛かった倒木を見て「おっ、枯れ滝に枯れた木があるよ」とT野さんがもう一発。



落ち葉のたまった谷筋を上がって行くと藪漕ぎのないままちょうど三国峠に出た。 13時、荷物を下ろして大休憩。靴を登山靴に履き替える。

生藤山はここから200m。A上さんが空身で歩き出した。せっかくなので僕も行ってみた。しかし山頂は木に覆われ眺望は無く、何のためかドラム缶が何本か置いてある。他には『藤野15名山』の標識。救いはツツジが咲いていたこと。

下山は三国山から軍刀利神社山宮を経て熊倉沢出合へと続く長い尾根を下る。下りの傾斜がきつくて登山靴に履き替えておいてよかった。痩せ尾根を辿り、一旦開けた所に出たがさらに下る。果たしてこんなに上って来たんだっけと思わせられるくらい長く急な下りである。

最後はストンと沢へ下り対岸へ渡ると熊倉沢出合。車に戻ったのは15時を回った ところであった。

大きな怪我が無かったから言うのだが、滝で滑ってダジャレで滑った滑りっ放しの1日であった。

 $(H \square)$